第６回 青森県人づくり戦略推進会議

日　時：平成２５年２月５日（火）
１４：３０～１６：００
場　所：青森国際ホテル　５階　芙蓉の間

（司会：石戸谷チームリーダー）
県人づくり戦略チームのリーダーをしております石戸谷と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
会議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。まず次第、それからこの裏面が出席者の名簿となっております。続きまして席図がございます。さらに資料１として、「次代を切り拓く人財の育成　－人は財（たから）だ！青森県－」、資料２－１といたしまして「第９回日本の次世代リーダー養成塾　～高校生のチャレンジ～」、資料２－２として「大戦争　～私が変わった２週間～」、資料３－１「あおもり立志挑戦塾　～あおもりの今をつくる人財～」、資料３－２「あおもり立志挑戦の会（ＡＲＣ）」、資料４「奥入瀬サミット 2012　－知、癒しと美　十和田湖３days－」開催概要となっております。
その他、参考資料といたしまして、当推進会議の設置要綱、さらには私ども人づくり戦略チームで作成した冊子、高校生のキャリアづくり応援マガジン「ＹＥＬＬ」創刊号と第２号。さらには「あおもり絆カンパニー」という冊子、「日本の次世代リーダー養成塾」の派遣報告書、そして最後に、総務省の外郭団体であります財団法人自治総合センターが昨年３月に取りまとめました「平成 23 年度「地域の活性化に関する調査研究会」報告書」をお配りしております。この中では本県における人財育成の取組が大きく紹介されております。
参考資料につきましては、後ほどご覧いただければと思っております。資料に不足等がございましたら事務局の方にお申し付けください。
それでは、皆様お集まりですので、ただいまから第６回青森県人づくり戦略推進会議を開会いたします。
開会にあたりまして、本会議の議長でございます三村知事よりご挨拶を申し上げます。

（知事）
皆さん、こんにちは。
青森でこれを言ってもしょうがないですけれども、足下の悪い中、雪の中、ようこそ今日はお出でくださいました。私ども、明日、明後日、除雪の費用の工面にまた行ってまいります。
本日はお忙しい中、「第６回青森県人づくり戦略推進会議」にご出席を賜り、誠にありがとうございます。皆様には、日頃から県政の推進にご理解とご協力をいただいております、併せて感謝を申し上げる次第でございます。
さて、長引くデフレ不況、少子化・高齢化、経済のグローバル化、そして東日本大震災からの復興など、私ども日本の国は多くの課題に直面しており、青森県も例外ではございません。
将来の見通しを立てるのが難しいこの時代、私は本県が持つ豊かで個性あふれる資源を活かした地域づくり、これを進めていく上で、何よりも重要となりますのは人の財（たから）、すなわち「人財」であり、「人財」の育成こそが未来の青森県づくりの基盤であると考えているところでございます。
そこで平成 18 年になりますが、「人財育成」を総合的に推進するため、県庁に人づくり戦略チ

ームを設置し、未来を担う子どもたちや地域産業・地域おこしの担い手の育成に重点的に取り組んでいるところでございます。「あおもりを愛する人づくり」ということを、どう進めるかということでございました。

さて、私どものこの会議は、人財育成に向けた気運醸成と関係機関の連携強化を目的に開催するものでございます。本日は、県の人財育成の取組についてご紹介を申し上げますとともに、「日本の次世代リーダー養成塾」に参加した大変元気な県立青森西高等学校の小原さん、そして「あおもり立志挑戦の会」会長の若井君をはじめとする立志挑戦塾の卒塾生の皆さん、また「奥入瀬サミット」の実行委員会副会長の小林先生、ありがとうございます。そして参加者を代表して町田さんからそれぞれ体験談や活動状況について発表していただくこととなっております。その後、本日ご出席の皆様方と発表者の方々を交え、「次代を切り拓く人財の育成」につきましての意見交換を行うこととなっております。

本日の会議を契機といたしまして、産・学・官・金融の関係機関一体となりましての人財育成に取り組み、「人づくりの先進地あおもり」をめざしていきたいと考えるところであります。

繰り返し申し上げますが、人は財（たから）だと、その気持ちでございます。何とぞその思いで、皆力を合わせていきたいと考えておりますので、よろしくご協力方お願い申し上げましてご挨拶とします。ありがとうございました。

（司会：石戸谷チームリーダー）

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は議長役の知事によろしくお願いいたします。

（知事）

それでは、ここから進行を務めさせていただきます。それではよろしくお願いします。

まず次第に従いまして、（１）人財育成に係る取組についての発表をお願いします。

ということで、県の方、お願いします。

（小山内企画政策部長）

県の企画政策部長の小山内です。私の方から本県の人財の育成についてご説明させていただきます。

資料１の１ページです。本県は豊かな自然、その自然が育む安全・安心でおいしい農林水産物、三内丸山遺跡や青森ねぶたをはじめとする伝統的な祭りなど、先人から受け継いできた固有の文化、さらには昨年のＢ－１グランプリでゴールドグランプリを受賞した八戸せんべい汁など、全国に誇れる多様で個性的な地域資源がたくさんございます。この地域資源を活かした地域づくりを進めていく上で、何よりも重要なのは人財の育成であり、人財の育成こそが未来の青森県づくりの基盤となります。

そこで県では平成 18 年、人づくり戦略チームを設置し、チャレンジ精神あふれる人財の育成をめざし、未来を担う子どもたちや地域産業、地域おこしの担い手の育成に重点的に取り組んでいるところであります。

「あおもりの未来をつくる人財の育成」では、子どもたちが地域の将来を担う人財としてたくましく成長していくことをめざし、キャリア教育の推進に教育委員会とともに取り組んでおります。これまでキャリア教育プログラムの開発などに取り組んできたほか、現在は教育委員会においてキャリア教育の指針の策定などに取り組んでいるところです。

この他、県内外の様々な分野で活躍する方々に、職業についたきっかけややり甲斐などをイン

タビューしてまとめた「ＹＥＬＬ」という冊子を作成し、県内の高校１年生全員に配布しております。また、「日本の次世代リーダー養成塾」という将来のリーダーの育成をめざすサマースクールに県内の高校生を派遣しています。

次に「あおもりの今をつくる人財の育成」では、地域の個性を活かし、起業・創業、地域おこしに果敢に挑戦する人財の育成をめざし、取組を進めているところです。１つ目が、「あおもり立志挑戦塾」です。県内の若手中堅層を対象に、平成 20 年度に開設したもので、今年度までに 114 名が塾を修了いたしました。塾の修了生は自発的に「あおもり立志挑戦の会」というＯＢ・ＯＧの会を設立し、塾の運営をサポートするとともに、塾への参加を契機に多様なネットワークを形成し、新たな活動にチャレンジしているところです。

また、これからの農業、漁業を牽引していく人財の育成や、創業・起業をめざす人財の育成にも取り組んでいます。

こうした取組に加え、人財育成に向けた新たなチャレンジを続けています。「奥入瀬サミット」は女性の人財育成とネットワーク化をめざし、超一流講師陣の講演と充実のアクティビティで構成する新感覚のプレミアムセミナーということで今年度から実施し、県内外から 55 名の女性経営者、女性リーダーの方々が参加してくださいました。

この他、会社を元気にしたいという思いを持つ企業経営者などを対象としたセミナー「みんなが好きになる会社 cafe」の開催などにも取り組んでいます。さらに職員のアイディア、チャレンジ意欲と貢献意欲を引き出すための取組も進めています。その１つが、通称、庁内ベンチャー制度です。これは若手職員が自ら企画立案した事業を自らが実施する制度で、平成 16 年度から実施しています。青森県に存在する地域資源を調査発掘し、それに付加価値を付けて首都圏の各メディアに効果的に情報提供をしていく「まるごと青森情報発信事業」をはじめ、これまで 20 件の事業を実施してきたところです。各分野で表彰を受けた取組もあるなど、職員の自由な発想が大きな成果を生み出している事例もあります。

これまで本県の人財育成に関する取組についてご説明してきました。人づくりは百年の大計であり、県民総ぐるみで人財育成に取り組んでいく必要があります。そして、自由な発想で様々なことにチャレンジする人財が数多く生まれることで地域が元気になり、元気な地域がさらに人財を呼び込み、新たな人財を育て、さらに地域が元気になっていくという人財育成の好循環を創っていきたいと考えています。

県としては、今後も引き続き人財育成を県政運営の基本に掲げ、力を入れて取り組んでいきたいと考えております。今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上であります。

（知事）

ご苦労さまでした。

では、お待たせしました。次世代リーダー養成塾、お願いします。

（人づくり戦略チーム　成田主査）

人づくり戦略チームの成田と申します。私の方から簡単に「日本の次世代リーダー養成塾」について説明した後に、今日、お越しいただいている青森西高校の小原晴夏さんから取組の内容をご紹介いただきます。

「日本の次世代リーダー養成塾」は、全国の高校生を対象にして、世界に通用する人財の育成をめざしたサマースクールです。今年度は 7 月 27 日から 8 月 9 日まで、14 日間、福岡県宗像市のグローバルアリーナという場所で行いました。全国から高校生が 165 名参加しておりまして、

うち青森県からは 11 名参加しております。
7 月 27 日の壮行式では、三村知事が 11 名の高校生に激励を行いました。県南地方、津軽地方を問わず、いろんな高校から今回参加をいただきました。
リーダー養成塾の特徴は２つございます。１つ目として、一流の講師陣による講義を実施しております。ちょっと名前が小さくて見づらいんですが、上から３段目の左から４つ目には、川口淳一郎先生もおりまして、その他にもマレーシアの元首相のマハティール・モハマドさんですとか、国連の元事務次長の明石康さんも講師陣に名を連ねております。
もう１つ特徴といたしましては、ハイスクール国会というユニークな取組がございます。これは高校生一人ひとりが国会議員になったつもりで、日本のこれからを考える政策を皆で作り上げるという長丁場の取組です。事前課題から始まって、総理大臣の選挙ですとか組閣ですとか、いろんなことを経た上で、最後、皆、一致団結して政策を発表したということでございます。
最後ですけれども、こちら、青森空港に帰ってきた時の 11 名の笑顔になっております。
それでは小原さんの方から実際の感想等を述べていただきます。よろしくお願いします。

（県立青森西高等学校　小原さん）
ただいまご紹介をいただきました青森西高校２年、小原晴夏です。よろしくお願いします。
「大戦争　～私が変わった２週間～　第９回日本の次世代リーダー塾に参加して」
今回、私がお話をしたいことは次の内容です。①リーダー塾に参加した感想、②リーダー塾で学んだ事、③たくさんの仲間達との出逢い、④ハイスクール国会を通して、⑤心に残った講義、⑥今後の抱負、⑦最後に、です。
リーダー塾に参加した感想。
リーダー塾に参加した２週間、それは今まで味わったことのないような想像を超えた刺激と感動がギュッと詰まった経験となりました。7 月 27 日、福岡県のグローバルアリーナで全国の高校生との初めての顔合わせである入塾式がありました。しかし、私はここで大変なことに気づいてしまったのです。自分は場違いなのではないか、そう思わずにはいられないくらい、全国の高校生の積極的でやる気あふれる雰囲気に押し潰されそうになりました。自信を吸い取られてしまった私は、福岡に来て早々、青森に帰りたいとさえ思ってしまったほどでした。このままではいけない、ボーっとしている間にきっとこの人達はずっと先に行ってしまう。置いていかれないように私も走りだそう。心に誓い、私の大戦争がスタートしました。
リーダー塾で学んだ事。
普段では見ることができないような興味引かれる資料を見ることができたこと、有名な講師の皆さんの貴重な講義、相手の声に耳に傾け、考えや思いを伝え合ったディスカッション。私にとってその全てが刺激的で視野が大きく広がりました。今までにないことばかりを体験し、考え方や知識はもちろん、意見の出し方やまとめ方も自分のスキルとして積み重ねることができました。
たくさんの仲間達との出逢い。
全国や海外の友人との出逢いは、私を大きく変えてくれました。北海道から沖縄まで、たくさんの仲間ができました。本気で笑い、泣き、考え、話し合う。全員で全力疾走をした毎日でした。苦しむ場面もありましたが、そんな時は必ず仲間が歩み寄り、同じ歩幅で歩いてくれました。また、将来の夢について心熱く語った日々は大切な思い出として刻まれ、今も私のがんばるためのエネルギーとして力を発揮しています。
ハイスクール国会を通して。
２週間を通して行ったハイスクール国会では、一人ひとりが真剣な眼差しで目の前の問題に体当たりしました。信頼できる絆もその中で生まれました。確かな絆で結ばれた私達は、お互いを

家族だと思い合うくらいになりました。私は、この家族である仲間から大きく２つのことを学びました。

１つ目は、ディスカッションのような話し合いの場がある時、全員が発言しやすい環境を作る大切さと、そのような環境があることのありがたさです。もう１つは意見を一つにまとめなければいけない時に仲間同士で協力することの楽しさです。何事も数人だけが中心となってしまうことがありがちな中、どんな些細なことであってもためらうことなく発言できるような環境づくり、そして全員が同じ目標に向かおうとする協力する姿勢は、その大変さを上回るほどの楽しさを初めて自分の中で体験することができました。

心に残った講義。

最も印象に残った講義は、中村俊郎先生の講義です。中村先生は島根県にある義肢装具会社、中村ブレイスの社長さんです。患者さん一人ひとりとしっかりと向き合い、相手の立場に立って気持ちを感じ取る。決して諦めずに精一杯ひたむきに仕事に取り組んでいらっしゃる中村先生。ほほえみながら穏やかに患者さんに対する思いや私達に対するメッセージを伝えてくださいました。誰かのために働くことの幸せ。絶えず自分の夢を燃やし続け、諦めないこと。自分の良さ、希望を大切にしてほしい。たくさんのすてきなお言葉とお話をいただきました。私の中で何か熱いものが込み上げて、ずっと涙が止まりませんでした。「会社名のブレイスには支えるという意味があります。しかし、実際には支えられている絆です。頑張っている患者さんの支えになりたい、その人の杖になりたい、そのような思いからこの名前を付けました。」、そう語っていた中村先生、人の為に自分が頑張ることの素晴らしさがグッと心に伝わった瞬間でした。心が洗われるような、本当に感動した講義でした。

今後の抱負。

２週間を通して私が強く思ったことは、行動力のある自分になろうということです。全国と海外から集まった塾生達は、全員が行動力のかたまりのようでした。私にはそれが自分を奮い立たせるとてもよい刺激になりました。一歩踏み出すことで物語が始まるように、これだと思ったことには自らアクションを起こしたいです。

そしてもう１つ、リーダー塾で出会うことができた仲間達と一生の付き合いをしていきたいです。最終日、私達は１つの約束をしました。次、再開する時は、お互いが夢に一歩前進した姿で胸を張って会おう。今、皆も頑張っているんだ、一人じゃない、そう思い、現在でも自分がどこにいても頑張ることができています。夢に近づいた仲間達と再開できる日を心から楽しみに待っています。

最後に。

不安でいっぱいのスタートでしたが、振り返ってみると本当にあっという間で夢のような２週間でした。想像を超えるほど心を大きく揺り動かされた経験と、心から尊敬でき信頼できるかけがえのない仲間との出逢いが私を大きく成長させてくれました。

リーダー塾で学んだことを活かして可能性を信じ、私らしい人生を一歩一歩、歩いて行こうと思います。

以上で私の発表を終わります。ご静聴、ありがとうございました。

（知事）

毎年、この発表が楽しみなんだ。ありがとうございました。

続いて若井君。頼みますよ。しっかりと。

（人づくり戦略チーム　熊沢総括主幹）
　それでは引き続き、あおもりの今をつくる人財ということで、あおもり立志挑戦塾の取組についてご説明をいたします。
　このあおもり立志挑戦塾は、平成 20 年度から開始している塾です。目的は地域経済、地域づくりを牽引するチャレンジャーの育成ということで、対象は 20 代から 30 代の若手の社会人となってございます。塾長は天明茂先生とおっしゃいまして、東京の事業構想大学院大学の教授を務められている方、２代目になりますけれども 23 年度からご就任いただいてございます。
　塾のねらいですけれども、「志」を立てて果敢に「挑戦」していくということで、年６回、土日の一泊二日で塾を開催してございます。
　塾の特徴でございますけれども、国内外の一線級の講師、最初は大分県元県知事の平松さんを講師としてお迎えしてございます。その他、国内外ということで、海外の外国人の方々、あるいは県内のゆかりの方々にも講師としてお話をいただいてございまして、人生や世界観、こういったものを塾生に熱く語っていただいてございます。
　塾の特徴として大まかに３つございます。まず、徹底した議論を行います。一泊二日、特定のテーマに基づいて塾生は何ができるのか、これをまず徹底して議論いたします。そして翌日にそれを皆さんの前で発表していただく。この繰り返しを年６回通じて行います。そして最後に知事、青森公立大学の学長等に対してその成果を発表する。今年は既に１月 18 日に発表を行いました。
　そして、この塾は年々、５年目でございますので塾生が増えてございます。ＯＢ・ＯＧによる塾の運営のサポート体制が整ってきてございます。
　それでは、塾生は塾を卒業した後、どういう活動に取り組んでいるのか。ここでは主に５つの柱でご紹介をしておりますが、例えば、生業づくりとしてはＢ級ご当地グルメで最近話題になりました「十和田のバラ焼き」ですとか、地域づくりでは、新青森駅周辺の賑わいづくりということで「あおもりマルシェ」の取組、それから人づくりでは、高等学校での職業講話等。こういった形で、いろいろな生業、地域づくり、人づくり、さらには先の東日本大震災の復興支援の取組ですとか、縦横無尽に現在県内で活躍しているところでございます。
　それでは引き続き、このあおもり立志挑戦塾の運営をサポートしていただいておりますあおもり立志挑戦の会から皆さんにご報告申し上げます。よろしくお願いします。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
　皆さん、こんにちは。あおもり立志挑戦の会会長の若井です。よろしくお願いいたします。
　先ほどの小原さんの発表、大変すばらしかったと思います。本当にすばらしかったと思います。あと、お父さん、お母さんにも自慢した方がいいと思います。それぐらいすばらしい内容だったと思います。
　毎年、高校生の方の発表の後に私達がお話をするのが本当に忍びないんですけれども。

（知事）
　何でよ、元気あるじゃん。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
　それだけが本当に誇れる部分なんですけれども。
　私ども、これからの発表を、小原さんは１人でやられたんだけれども６名でやります。１事案１分でお話をしていきますので、まずは私どもの活動の概要を事務局長の蛯名から１分で説明いたします。

（あおもり立志挑戦の会　蛯名さん）
蛯名です。塾の概要ということで、ＡＲＣの活動につきましては、やはりスタート地点が知事への成果報告会であると思っています。この成果報告につきましては塾の成果だけではなく、今後の取組についてもそれぞれの期で発表をするのが特徴となっております。１期生につきましては知る活動の継続、２期生につきましては個々の活動への発展、３期・４期生につきましては、この後、少し説明をさせていただきますが、現５期生につきましては塾を通じて実際に行動に移した清掃活動を県内一円で実施させていくという宣言をされていました。大変すばらしいことだと思っております。
続きまして、会につきましてですけれども、第１期生のＯＢ・ＯＧが中心となりまして 2009 年 2 月 13 日に発足しております。志を共にするメンバーと塾の修了と共に会えなくなるのはあまりにももったいないという思いもあり発足したものです。
続きまして、会員の業種、職種でございますが、ご覧のとおり多種多様になってございますが、現５期生の中には青森県らしく、ねぶた師の方も入塾されているという状況でございます。
会員の地域別構成ですが、県内一円に散らばっておりまして、25 年 1 月 31 日現在では 89 名となっており、現５期生が入会すると 100 名を超える組織となることになっております。
それでは具体的な実施例として、あおもりマルシェについて、小田切さんにお願いいたします。

（あおもり立志挑戦の会　小田切さん）
それでは私から、あおもりマルシェについてご説明いたします。
このあおもりマルシェですけれども、若手農業トップランナーの卒塾生との出会いが始めのきっかけです。ここから全てがスタートしております。
このあおもりマルシェのコンセプトについては、青森の良い物を地元の方々にもっと知っていただきたいということを考えております。青森には魅力的なものが沢山ありますので、それを知ってもらうことで人も知ってもらい、そこから賑わいや地域への愛着、地産地消へとつながるような出会いの場にしたいという思いで去年からスタートしました。
昨年は４回実施しまして大盛況で終わることができました。場所は新青森駅前の賑わいにも貢献をしようということで、ここでやっております。全て対面方式で、イベント運営は全て手作りでございます。13 名の実行委員会と 100 名以上のボランティアスタッフを擁しまして、何とか実行にこぎつけることができました。25 年度も引き続き実施していきたいと思います。よろしくお願いします。
引き続き、会長の若井からご説明いたします。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
それから連携の２番として、あおもりリーダーネットワーク交流会、これは私どもと農業トップランナーの方達、水産業の方達との集まりを年に１回やっておりまして、今年は 3 月 8 日の金曜日に 16 時からあるようですけれども、このところからあおもりマルシェのアイディアも生まれましたので、すばらしい連携だと思います。
連携の３つ目として、県庁の方達との部局横断寺子屋というものを開始いたしました。これを 9 月 27 日にやりまして、県の若手の方達と私どもとお話をさせていただきまして、本当に偉そうに聞こえるかもしれませんが、大変よい試みだったと思います。やはり県庁の方は優秀な方が多いというのが私の感想でございます。ただ、残念なのが、１回だけで今回取組が終わっておりますので、年度中に是非もう１度、何度でもいいんですけれども。というのは、お互いにとって刺激というのは何度もやらないと効果が薄いと私は思っておりますので、是非この連携をまた組ん

でいただければなと思っております。

（知事）
指導をしておきます。時間の関係はあるかもしれないけれども。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
よくよくお願いいたします。
塾のお話をさせていただきますので、工藤に替わります。

（あおもり立志挑戦の会　工藤さん）
次のテーマ、継続です。あおもり立志挑戦の会の根っこであるあおもり立志挑戦塾のサポートの状況について報告をいたします。
1 月 18 日の知事への発表をもって５期生のサポートは終了いたしました。毎回のことですが、よく塾生は成長するんだなと思っております。私、下北から通っていつも手伝いをしているんですけれども、参加して良かったな、成長する姿を見て良かったなと、つくづく思っております。
さて、今回から新規のサポートとしまして会の会費から塾に対して資金を出資しました。理由としましては、新たな青森県を良くしたい人財を育成することと塾への恩返しです。さらに、今まで青森公立大が実施していたファシリテーターを会の方から一部出しました。塾生やスタッフの立場ではなく、発言を促す立場を学ぶことができ、大変勉強になりました。今後も塾のサポートを続けていきます。
ユメココの杉山さん、お願いいたします。

（あおもり立志挑戦の会　杉山さん）
杉山です。
それでは、もっとユメココ事業での活動についてご説明いたします。
私達は、平成 23 年度から学校に伺い、高校生の方に職業人や社会人として、私達が持っている仕事に対する志や人生観などを伝える活動をしています。活動は 9 月 11 日に五所川原農林高校、11 月 6 日に七戸高校で行い、あおもり立志挑戦の会メンバー３名、当会のメンバーが経営する会社の社員の方１名と、合わせて４名が伺いました。この２校には昨年も伺っております。
私達の活動は、学生の方達に自分の身近な地域で働く人を知り、地域の仕事を知り、その経験からもっと地域や仕事を知りたいと思って、それぞれの将来や未来に向けて積極的な行動につなげていくきっかけづくりになってほしいという思いがあります。学生の方達と私達のお互いの知りたい、知ってほしいという思いが、地域や、また地域の仕事を愛するということにつながっていったらいいと思っています。県内の様々な箇所におります現在 89 名の当会メンバーで、今後も継続して、もっとユメココ事業を進めてまいりたいと思っております。
以上です。次は蛯名からご説明いたします。

（あおもり立志挑戦の会　蛯名さん）
それでは蛯名の方から、会員の個々の活動の中から、一部ご紹介させていただきます。
まず１期生の工藤さんですが、東通★東風塾への参加、東通の良さを知ってもらうために都市部との交流を続けられております。２期生の秋元さんは、世界遺産登録 20 周年の白神山地のマザーツリーと弘前市のキャラクター、たかまる君をあしらった年賀ハガキで弘前市のＰＲに活躍されております。３期生の白濱さんは、自社の温泉熱を利用したCO_2を出さないヒートポンプを導

入して、自然環境に優しい取組を続けています。４期生の臼田さんは、４期生を中心とした有志メンバーで実行委員会を組織し、震災による避難者との交流のふれあい事業、上北ふれあいキャンプということで、上北地域県民局と連携をしながら実施をしているところです。

今後とも、個々に様々な活動に取り組んでいくことになってございます。

それでは、知る活動の方ですが、羽賀よりご説明いたします。

（あおもり立志挑戦の会　羽賀さん）

ＡＲＣの広報を担当しております羽賀です。

ＡＲＣでは、これまで知らなかったことを知るという意識をベースに様々な学びの機会を創りました。これまで東通原発の施設見学や弘前城観桜会の実施、三沢市のハウス農園の見学などから、県内各エリアでの清掃活動なども体験し、昨年 10 月の中旬には黒石市の浅瀬石川ダムやダム水力発電の施設見学、こみせ通りの商店の見学を行いました。

それぞれの現場での詳細などは、実際にその場所を見たり、そこでの声を聞くことで知らなかったことに出会うことができました。

今後は様々な職種の人達が出会うあおもり立志挑戦という大変貴重で特異なこの場所の特性を活かし、見学後は意見交換集約し、提案などを行えるような建設的な議論の場所を創っていく所存です。

情報過多な今だからこそ、先入観にとらわれることなく正しい見識を持って、知り、学び、それらを発信していくことを活動の基礎にしていきます。

知ってもらう活動を引き続き会長の若井からご説明させていただきます。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）

知ってもらう活動ということで、これは昨年の７月１日に、今日この会場にもいらっしゃいます九戸さんと私が「あおもりの未来を考えるシンポジウム」というものに、パネラーとして出演いたしまして、あおもり立志挑戦塾のことを大々的にＰＲしたつもりです。

それから、この時に、青森を盛り上げようということでねぶたＢｉｚというのを提案いたしました。このねぶたＢｉｚというのは、例えば銀行の行員の方、それから行政の市役所・県庁の窓口の方がねぶた祭り期間、その前にねぶたの衣装を着ておもてなしをしたらいかがでしょうかということを提案いたしまして、それで実際にみちのく銀行さんが実施していただきました。この時に見に行きましたけれど、大変すばらしいものでした。ただ、女性行員の方に聞いたら「暑い」という意見はありましたけれども、是非、来年は、県も市も金融機関もやってみていただけたらなと私は思っております。

また、知ってもらう活動として、昨今、青森のねぶた祭の話で恐縮ですけれども、ハネトが少ないということをよく耳にいたします。じゃあ、ハネトが少ないだけで終わっているような気がいたしまして、増やすためにどうしたらいいか。本流のところはハネトの浴衣の着付けのビデオを作ったりとか、そういうことをしていただいているものですから、私どもは少しくだけて、跳ねるのはこんなに楽しいんだというのを動画で撮影いたしまして、皆さんに呼びかけをして、エキストラの方 160 名ほど集まっていただいたんですが、これを動画のコンテンツサービスに乗せました、ユーチューブというところですけれども。

そうしましたら、そのダウンロードが大体５万ダウンロードです。中国版ユーチューブになりますと、これが 70 万ダウンロードです。この結果、どういうことが起きたかというと、昨年の、私の団体はマルハニチロという団体ですけれど、外国人のハネトの数が一気に増えました。

そのような効果がございますので、１つのインバウンドとしてもこのような無料のツールを使

ってできるのではないかと思っております。
今後の活動として私どもは、ここにも書いてありますけれども、まず「連携」の強化ですね。それから「継続」、そして挑戦する仲間を増やしていこうと思っております。私ども、よく「何をやっている会なんですか」と聞かれますけれども、偉そうに聞こえるかもしれませんけれど、「人財育成です」と私は答えております。そのために具体的な要素は何か。今までご紹介をしましたが、人財育成、教育というのはやっぱり橋とか建物、道路を造るように目に見えるものではありませんし、点数で評価しにくいものでございます。ただ１つだけ言えるのは、これは継続してやっていかなければならない、継続すれば必ず成果が上がるものだと私は思っております。
５年後までは利益、10 年後には負債に転じるようなものを作るのではなくて、中長期的に人財を育てる、これに皆さんで向かっていかれたらどうかなと思います。ゴミを拾うのを人に任せているとやはり地域は良くなりません。そのゴミも地域の方達で拾っていくことで時間とお金が掛かりますが、一番確かな財産になることだと私は考えております。
ご静聴、ありがとうございました。

（知事）
本当にスタートして良かった。継続、また一緒に頑張ろうと。
それでは小林先生と町田さんに、奥入瀬サミットの方をお願いしたいと思います。

（人づくり戦略チーム　奥田総括主幹）
それでは資料４の奥入瀬サミットについてご説明させていただきます。
奥入瀬サミットは、昨年 9 月、女性の人財育成、十和田湖・奥入瀬渓流におけるセミナーツーリズムの振興をめざして、全国自治体初の試みとして実施をいたしました。
場所は星野リゾート・奥入瀬渓流ホテル。関係機関で構成する実行委員会を組織いたしまして、八戸大学の大谷学長に会長に就任していただいております。
順序がちょっと逆になりますが、先にプログラムの方をご紹介いたしますと、初日は星野リゾートの星野社長、それからマザーハウスの山口社長の講演、そして夜は交流会。２日目はスペシャルアクティビティということで、十和田湖早朝カヌーツアー、あるいはマラソンの谷川真理さんと走る早朝の奥入瀬渓流ジョギング。そしてその後、本県出身の川口淳一郎先生の講演、さらに３つの分科会。午後は各種アクティビティ、さらに夜は十和田湖ナイトクルーズ。３日目はキャスターの安藤優子さんのご講演という内容で実施をいたしました。
基本的には県内外の女性経営者や企業の女性役員、それから社員の方々などを対象に実施したものでございますが、この中で一部、プログラムの中で一般開放と記載しております初日の全体会１、２、それから２日目の全体会３、こちらは一般開放ということで、参加者につきましては女性リーダーが県内外から 55 名、一般参加は延べで 330 名となっております。
これから先は、当日の模様をスライドでご紹介してまいります。こちら初日オープニングの様子でございます。続きまして、こちらは全体会の１、それから２ということで、星野リゾートの星野社長、マザーハウスの山口社長の講演が行われました。夜は交流会ということで、十和田市長にもご出席いただいた他、講師の皆様、山口絵理子さん、星野リゾートの星野社長、さらには翌日の川口先生や谷川真理さん、こういった方々にも交流会に出席していただきまして、参加者の皆様と交流を図っていただきました。
こちらは２日目です。十和田湖の宇樽部キャンプ場の方で早朝カヌーツアーを行いました。こちらは谷川真理さんと早朝の奥入瀬渓流をジョギングするという企画でございまして、およそ２キロですけれども、谷川さんと一緒にジョギングをするという非常に貴重な機会をつくることが

できました。
その後、全体会３ということで、川口淳一郎先生の講演、そして分科会を３つに分かれて開催いたしました。
この日の午後は、さらに十和田湖、奥入瀬渓流で体験できる様々なアクティビティということで、乗馬体験ですとかエステ、ランブリング、それからヨガ、温泉、さらには十和田市現代美術館といったところのアクティビティを参加者の皆さんに体験していただいたところです。
この日の夜は十和田湖の遊覧船をチャーターいたしまして、ナイトクルーズということで、あいにく曇り空で、星はあまりよく見えなかったんですけれども、こういった取組を行ったところでございます。
最終日は安藤優子さんの講演がありまして、その後クロージングということで、左下の皆さんが手を上げている写真は、大谷学長が「来年も参加したい人？」と聞いたら皆さんに手を挙げていただいた、ということで、非常に良かったと思っております。
こちらが参加者の皆さんから個別にいただいた感想で、後ほどご覧いただければと思うんですが、いずれの方々からも非常に中身が良かったということで高い評価をいただいたところです。
予定ではありますが、来年度奥入瀬サミット 2013 ということで、また同じ 9 月上旬、今年は 9 月 6 日から 8 日まで二泊三日の日程で、同じく星野リゾート・奥入瀬渓流ホテルで開催する予定となっております。
ということで、概要についてご説明いたしました。県といたしましては、できるだけこれを継続して実施して、県内外の女性リーダーが集まるセミナーとして奥入瀬サミットを定着させていきたいと考えております。
それでは引き続き、実行委員会の副会長をしていただいております十和田市現代美術館メディア担当顧問の小林ベイカー央子さん、そして参加者を代表してＮＰＯ法人ＡＣＴＹ理事長の町田直子さんから、それぞれ奥入瀬サミットについてお話をしていただきたいと思います。

（奥入瀬サミット実行委員会副会長　小林さん）
小林です。座ったままで失礼いたします。
すごくいい３日間だと思います。実行委員会の中から言うのも何なんですが、それはなぜかというふうに考えた時に、やはりいろんなアクティビティはありましたけれども、十和田湖、奥入瀬の圧倒的な自然ですね。これが非常にパワーが素晴らしいということです。あの場にいると、ちまちました演出といいますか、例えば私の東京に住んでおりますのでいろんなセミナーに出ますけれども、そういうところで例えば自然の風景をワーっとプロジェクションで流したりとか、そうした演出は全くいりません。あの空気を吸って、あの緑を見て、奥入瀬の息吹を感じて、それだけでもう 80％ぐらいそこでサミットは成功します。そうした自然がこの青森県にあるという、リソースのあることの幸せといいますか、それを非常に感じました。
先ほども申し上げましたとおり、私は東京に住んでいるのですが、このサミットに参加した方々と東京でもご飯を食べたりしています。日立ソリューションズの久永さん、日本原子力の神田さん、クレディセゾンの武田さんという方達とご飯をもう２～３回食べているんですけれども、その中で情報交換をして。私達だけではなくて、サテライト的にいろんな人達が、今回の奥入瀬サミットをきっかけにタンポポの綿毛が飛んでいくように、奥入瀬をきっかけにした絆が日本全国で広がっていっているんだと私は思っています。それが非常に素晴らしいなと思います。
本当にその時に初めて会った仲なんですが、ずっと知っているような感じですね。それはその３日間を、あの素晴らしい自然の中で仕事のことも話したしプライベートのことも話したり、話さなかったり。もう私達の年齢になりますと話さなくても分かるようなことがあるんです。そう

いう絆を築けた。短い時間ではあったけれども非常に内容の濃い時間だったと思います。

ちょっと欲を言いますと、私いつも思うんですが、これも素晴らしいですね、このＹＥＬＬ。こんなに青森県には素晴らしい人財がいて、もう頼もしいなと思った次第なんですが、例えばサミットのようないいことをやっていても、それが知られなければ、やっていないことと同じではないのですが、やはり発信というのは非常に大事なんですね。

ですので、サミットに関しても発進力のある方、拡散力のある方を戦略的にといいますか、戦略を考えればそういう方を招待というか、参加者に入れてソーシャルネットワークとかまたはブログとか、そういうところで発信をしてもらう。この発信というのは、例えば有名人を呼んできて、その人が来たから話題になるとかいうのもあると思うんですね。

私、奥田さんとかに、「アンジェリーナ・ジョリーを呼びましょうよ」って言ったら、「小林さん、予算、飛びますので止めてください」って言われたんですが、そういう有名人が来てとかいうことではない、もっとグラスルーツで頑張って素敵な女性がいっぱいいるわけですから、そういう方達の力を借りて発信する、これはサミットだけではなくて県の事業全部にいえることではないかなと。ここでも人を利用というか活用するということですね。それができるのではないかなと思いました。

私は美術館のことをちょっとやっておりますので、今回、自然の美しさ、非常に昔から思っておりましたけれども、青森県といいますのは県立美術館があって、十和田もそうですが寺山さんがいます。棟方さんもいます。ハッチもできました。ＡＣＡＣ（国際芸術センター）もあります、というので、アートの施設としても、アートの青い森という括りでコンテンツになるんです。

ですので、例えばツーリズムを考えた時に、アート＆ネーチャーツーリズムということで、圧倒的な美しさのある自然＋そうしたアートのことも楽しめる。アートといいますと、皆さん、美術とか作品とかをお思いになるかもしれませんけれども、私の中でアートというのは生きることを励ます行為だと思うんですね。自然を見ても生きる力をもらって励まされる、アートの作品を観ても、そこでアーティストと出会って、こんな考え方もあるんだなということでまた生きる力が湧く。そういうことで、アート＆ネーチャーツーリズムということも一つ自然の中のツーリズムのリソースとして活用していけるのではないかと思いました。

特に、先ほども出ましたけれどもインバウンドですね。今、いろいろ島の問題とかがあって、特にアジアとの関係が悪くなっている時だからこそ、政府とかそういうレベルじゃない市井のピープルパワー、そういう時代なんですから、そういう方達を本当に市民の力で呼んで、私達が呼んで、その人達にまた拡散をしてもらうと。その方法でいけるんじゃないかなと。そっちの方が力があります。だって、政権なんて代わってしまえばまた何か違ったことが起こったりするわけですが、人々の絆は変わらないんです。青森県のファンが増えると、特に有事の時は助けてもらえます。それは国が違っても肌の色が違っても、絶対それは投資と同じだと私は思っています。

最後なんですけれども、今回、このサミットに関わらせていただいて一つ感じたことは、人ですね。県内にこんなに素晴らしい人がいるということも一つありますけれども、人づくり戦略チームの人達がすばらしかったです。サミットのチームは、私は行政の十和田市役所の方達とも美術館の仕事で一緒にやっておりますけれども、人づくり戦略チームのサミット担当の方達は、ノーの発想から始まっていない方達でした。必ず、どうしたらできるか、を最初にプライオリティーに考えて行動をしてくださいました。私はちょっとデザインのこととかでもいろいろ、「ダメですよ、もっとこうした方が。ダメですよ、ダメですよ」って、ダメ出し大臣だったんですね、だと思います。すごく面倒くさかったと思います。が、そうした小さな細かいことが、実は全てなんです。「でもね、小林さん、そういう前例がありませんから、組織的にできませんから」、そういうことを一切おっしゃらなかったです。それは非常に素晴らしいと思いました。

（知事）
ありがとうございます。元々前例のないことをやっているものだから。

（奥入瀬サミット実行委員会副会長　小林さん）
とてもいい経験をさせていただいたと思っています。ありがとうございました。

（知事）
ありがとうございました。今後の意見交換のために、いろいろテーマを提供していただいたので嬉しく思います。町田さん、お願いします。

（ＮＰＯ法人ＡＣＴＹ理事長　町田さん）
それでは参加者を代表いたしまして、数点報告をさせていただきたいと思います。
将来、私もこの奥入瀬サミットというのが日本を代表する女性の集まるサミットになってほしいなと思っておりまして、そんな中で、今日は４点ほどお話をしたいのですが。その内、２点はプログラムの魅力というのを徹底追求していくというところなんですが。
まず、１番目に、今後も是非追求してほしいと思うのが、このおしゃれ感です。このプロジェクト、非常におしゃれだと思いました。最初に招待状というのが届いたんですが、この長細い紙質のとてもいい封書で届いたわけなんですけれども、もう私はその封筒を見た瞬間に、「おっ、これはすごいな。きっと何かをやりたいな、何か違うことをやりたい」という心意気をものすごく感じまして、中のデザインとかも非常に洗練されていました。今、いろいろお話を伺うと、やっぱり小林さんの力が相当働いてるのかなと思いました。
そういうこともあって、それを見た瞬間に、私は何かこれは違うんだなというのをすごく実感できました。それは瞬時にそういうものを伝えるというのは非常に難しいことだと思うんですけれども、その時点で何かを訴えたというところから素晴らしいなと。
値段を見ても、通常、行政が実施するようなものから言いますと、95,000 円の参加費用でした。講師陣を見て、私は本当に全然高いとか思わなくて、むしろ感動しました。これだけのお金を取って県が実施をするというのは、相当の自信とすごいプログラムだなというのをすごく感じました。
実際、普段なかなかこれだけの講師陣と一気にこの青森にいて聞ける機会というのはないですので、非常にすごいなと思いました。実際、私自身、山口さんの話を聞いて、「こんなすごい人が世の中にいるんだ」と感動しまして、そうしたら、そのお店でカバンを買いたくなって、私、次の週に東京まで行きまして、その本店に行ってカバンを買いにいったんですね。やはりそういうふうに人に思わせるだけのお話というか、そういう人と接する、素晴らしいなと思いました。
安藤さんに関しましても、女性として生きていく中で、女子アナ、女子キャスターの世界というのは本当に年齢的にも厳しい世界だと思うのですが、本当に新しい世界を開拓されている人というものを感じていましたので、そういう方と直接お話ができるというのは本当にすばらしいプログラムだと思いました。
それともう１つ、賛否両論がここは参加者からあったんですが、「案内がものすごく不十分な感じがあったよね」という意見もあったんですけれども、私はむしろそれがすごくプレミアム感に感じまして、できる女性というのはうるさく言わなくていいんだと、ビッと１回こうだと案内が出たら、自分で判断をして行くんだと思っていたので、それが何かすごいと思っていたんですが、そこはちょっと賛否両論でした。
もう１点、徹底追求していただきたいというのが、このプレミアム感というか特別感ですね。

自分達は選ばれているんだという、何かそういう特別感。実際、私は何かの県の会議に出た時に、こういう事業がありますというのを見ていたんですね。それを見た時に、「ああ、すごい人が集まるんだろうな。どういう人が来るんだろう」とか思っていました。招待状がある人が参加できますと書いていたので、いいなあとか思っていました。そうしたら、それから数週間後か何かに、ある日突然その招待状が届きまして、「おー、来た」って思いました、実際。なので、やはりそういったプレミアム感、自分は「選ばれたんだ」みたいな。そういうものを徹底追求していく、それが１つのステップとして捉えられればいいのかなと思いました。

その反面というか、今後、明確に本当にポリシーとして打ち出していかないといけないのかなというところが、そういった先ほどにも関連するんですが、公平公正なオポチュニティーというところです。「来たー」という喜びもあるんですが、その反面、例えば、来なかった人が、「行政が実施しているものが、県が実施しているものが人を選ぶとは何事だ」と、「招待状がある人しか来れないって、どういうことよ」と思われる方もいらっしゃると思うんですね。そういった方々も、でも納得する何かポリシーラインみたいな。そこが何か言われてそういうふうに出た時に、「いや、でもこうなんです」と。

例えば、いろいろ企業で利益を本当に追求してすごく成功をしている方もいらっしゃるでしょうし、地域貢献というのですごく頑張っている方もいるかもしれない。すごい、いろんなことをやっている人がいて、このオポチュニティーというのが常に１本であれば、これはすごく不平等だと思うんですね。それが、そういった頑張っている人と、こういう人がいるのに伴ってこういうふうにやはりオポチュニティーというのが増減するのではないかと。それが本当の公平公正じゃないのかなと。

そうした時に、やはり何か言われたり、何かそういう話が出た時に、「いえ、これはこうなんです」と、そういった人にはこういうオポチュニティーがあります。でも、じゃあそうでない人にはこういうオポチュニティーもあるんですと。そういう選択肢を明確にしていた方がいいのかなというのを感じました。

あと１つ、ＰＲの難しさというのをすごく感じました。例えば、招待状が来た人が参加できますよといった時に、まず、じゃあどういった人達に招待状を出して、そういった招待状をただ出して、「じゃあ行きます」という人がいるかというと、そうでもないと思います。そういった人達用のＰＲをしないといけないですし、もう１つ、一般公開されている講座がありました。それはまた一般の方にＰＲをしていかないといけない。

じゃあ、実際参加した時に、前の方に招待状を持っている人達がいて、後ろにそうでない人達の一般公開がいて。そういった時に、どういう棲み分けをして、どういう広報をしていくのか。そしてＰＲをして、それを集客に結びつけていくのかというところはしっかりしたポリシーも訴えていくことによって集客にもつながっていくのかなということをすごく感じました。

この辺を、魅力の徹底追求というところで、さらにそれをどんどん打ち出していってほしいなという部分と、ポリシーという部分は今後、さらに磨きをかけて発信していくことにより、このプログラムが本当に「日本を代表する女性が集まるサミットと言えば青森県のあれです」と言われるような位置づけになっていけばいいなと思っております。

どうもありがとうございます。

（知事）

ありがとうございます。様々、本当にご指摘もいただきまして。このチーム、へたりそうになりながら、何とか辿り着いたというのが本音のところもありまして、いただいたご意見、またアンケートもございましたので、しっかり我々としていい形で消化しながら前へと。本当に前例の

ないことばかりやっているものですから、このチームは、ということで進めていきたいと思います。本当にありがとうございました。
皆さん、ありがとうございました。
議事の（２）、もう意見交換に導入していただいたという感じはあるんですけれども、これからテーマとして、「次代を切り拓く人財の育成」ということで、例えばキャリア教育であるとかグローバル人財の関係、女性人財の関係、ものづくり人財の育成等、各団体における取組のご紹介、そしてまたこれまでの発表へのご意見、ご質問も含めてのご発言をお願いしたいと思っております。積極的に手を上げていただきたいと思います。

（青森県高等学校長協会　小川会長）
校長協会の小川と申します。よろしくどうぞお願いいたします。
今、様々な取組を拝見いたしました。まず高校としてみますと、最初の青森西高校の小原さん、本校からも小山内という生徒が参加しましたけれども、行く前と帰ってきてからで全然意識が変わっておりました。様々な取組をする中で生徒が成長をするというのを実感しております。
今、教育の立場としますと、各企業様のご協力のもと、インターンシップを様々展開してございますけれども、これもやっぱり１回意識を持って参加するということで生徒の意識は将来をすごく考えるようになりますし、それから大学との連携、高大連携をすることによっても生徒は「自分の将来はこういうふうなのがあるんだ」とか、たまたまその会社に行った時に、「私にはこの選択はない」ということも意識して戻ってまいります。
そういうことで異世代との交流というのは高校生にとっては非常に大事であり、人づくりに貢献するものと考えております。高校生というのは年齢的には低いレベルですので、一番先頭のリーダーとはなかなかなれませんけれども、将来のリーダーとして十分な能力を持っている素材だと私は考えております。今後も地域の皆様のお力添えをいただきまして、何とか人づくり、教育は人づくりということで進めてまいりたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

（知事）
ありがとうございます。また、ご評価をいただいて嬉しく思いました。
その他、どなたかございませんでしょうか。
お願いします、高専の校長先生。

（八戸工業高等専門学校　岡田校長）
八戸高専の校長の岡田と申します。私、去年の４月から赴任いたしまして、去年はこの会議に出席できませんでしたので、初めて今日、聞かせていただきました。
青森県内で大変様々な取組がなされているということで、いやあ、びっくりしました。非常に皆さんが活気づきますし、それから地域の皆さんのお互いの人財ネットワークがどんどんできるということで、大変すばらしいことをしているということを今日、初めて勉強させていただきました。ということは、あまり発信されていないということを、逆に私は言っているんですが。
ここに私が赴任してきてみて、青森県って野菜はおいしいし果物はおいしいし美男美女は多いし、皆いいことばっかりなんですけど、日本酒もおいしいですしね。ところが、仙台に私はずっと 30 数年、東北大で教鞭をとっていたのですが、全然分からないんですよね。ここに来て、初めてそのことが分かるということで、これだけ素晴らしいいろんな取組をされていたら、それはそれでやっぱり発信をしなきゃいけないかなというのが１つの、これは青森市でも同じ、八戸市で

も同じなんですが。なかなか取組自体、それからいろんなものに対する発信力、これが一つ必要かなと思いました。

それから一つ違う観点でお話をさせていただくと、今、高等教育は大学改革を始め皆改革が求められています。それは経団連から文科省に非常に強い働きかけがあって、いろんな会社が世界に展開する中で、ほとんど新しい人というか、さっと外国に行ってやれる人がいないと。大学、高等教育機関は何をしているんだ、という非常に強いお叱りをいただきまして、今年は実施期間になっています、ちょうど本年度の３月までが計画で、25・26 は実施期間になっています。

そんな中で、今、グローバル人財というのが非常に叫ばれていまして、今、八戸高専では専攻科 27 人いるんですけれど、その半分はフランスに３ヵ月行っています。それからもう１、２、３年生、今年はアメリカに出掛けます。それだけ国からファンディングが出て、「行ってきなさい」ということなんですが。

ともかく、そこまで日本の全体が追い込まれているということなので、この目的は、青森の目的はもちろん青森県を元気づけるということですが、逆に違う例でお話をした方がいいと思うんですが、例えば「玉川精機さんって、何でここに工場があるの？」って言ったら、元々創業者がこちらの方で。

（知事）

務めていたんですよ、平内という町で。それで分社してからなったんです。

（八戸工業高等専門学校　岡田校長）

やっぱり、ここに造れということで、そこで皆、やっぱり雇用があるということ。

それから稲盛さんも、実は鹿児島で京セラなんですけれども、元々鹿児島で、だからあそこに工場を造ったとか。

やっぱり、そういう方もどんどん輩出をして、ここに工場ができるような偉い人も将来創っていかなくちゃいけないということで。

そういう意味での人財から申し上げると、ある意味では世界に羽ばたけるような視点での人財、ここの取組でやるかどうかですけれども。

一応私達の高専の工学という分野においては、ものづくりは世界との闘いで、もうそこに就職をしたらすぐにどこかに行きなさいということを言われるので、今、一生懸命英語の教育をして、今年、お陰様で 27 人中 10 名が英語で原稿を見ずに皆発表ができるようになりましたので、ますます英語に馬力をかけていきたいと思います。その中で何とか世界を見せたい。

すいません、ここ青森の話をしているんですけれど、将来、そういう意味でまたこちらに舞い戻ってきて、いい会社をどんどん創っていただく意味も含めて。私は英語に力を入れろというのではなくて、グローバルというのは言葉がしゃべれなくてもそこで活躍をしてどんどんやっていける人がグローバルという意味で、英語が分かる人がグローバルじゃないと思っているので、できたらそんな視点で少し取組、広報をちょっとどんなふうにして皆に知らせていったらいいのかとか、あとは世界の視点からの青森、要するに青森をどう全国区で見ていって宣伝をしたらいいのか、世界から宣伝をしたらいいのかというところの人財づくりというところもできたら。

あまりに言い過ぎですけれども、すいません。以上でございます。

（知事）

ありがとうございます。

せっかくご提言もいただきましたので、先ほど小林さんと町田さんからのお話も含め、発信力、

今の先生からの発信力の問題を含めて、部の方で誰か。
そして、あとグローバル人財、世界にさっと行ってきた若井君の方から、今後立志としてグローバル的なものを育成するにはどうかということを、うちの方でしゃべっている間に考えておいてください。

（小山内企画政策部長）
企画政策部長の小山内です。情報発信ということで、弁解をするわけではありませんが、他の県のことが我々にそれだけ耳に入っているかというと、なかなかお互いの地方のそういった取組の情報発信というのは難しいところがあります。
我々としては、２つ申し上げますと、１つは正攻法じゃないと言ったら語弊がありますが、さきほど御説明した庁内ベンチャー制度の中で、なるだけ青森県の素晴らしさを取り上げてもらえるような取組を、水面下で動いています。気づいておられる方もいらっしゃると思いますが、何か最近テレビで青森の食い物が紹介されるなとか、そういったのは意外と水面下でやっている、ある意味作為的にやっている、そういった取組がございます。
もう１つは、正攻法といいますか、これは企画政策部において様々なリポート、印刷物等ありますけれども、なるだけそういう場面において本県の取組のユニークさ等を盛り込んだものを出しているつもりですし、また今後も出していきたいと。
そしてまた、より出すだけじゃなくてアプローチと言いますか、リーチと言いますか、相手に届くようなことを正攻法の部分においても検討をしてみたいと思っております。

（知事）
サミットの部分で少し。

（石戸谷チームリーダー）
奥入瀬サミットにつきましては、今年度、初めての取組ということの中で、いろいろ試行錯誤しながら、という部分がございました。今、いただいたご意見、あるいはまた実行委員会の中でもいろいろ議論がございます。そういったものも踏まえて、次回、さらにステップアップして取り組んでいきたいと思っております。

（知事）
では、ささっと行ってきた若大将。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
今の岡田校長先生のお話で、情報発信の仕方がまずあまり良くないというお話があったかと思います。私は別に県の人間ではありませんので擁護するわけでもないです。
私が初めに青森に帰ってきた時に、同じようなことを申し上げまして、九戸さんから叱咤されたんですけれども。激励ですね、激励されました。
私も住んでみて分かったんですけれども、この地域に住んでいる方は、この地域の素晴らしさに気づいていないだけなんですよ。私の妻はすごく美人なんですね。毎日見ているものですから、その良さに気づかない。ですから、一度、外に住む、私もそうですけど、違う国に住む。そうすると青森の良さに気づくんです。やっと気づくんですよ。
ですから、今、岡田校長が宮城からこちらに来て、素晴らしいでしょう？青森県。素晴らしいでしょう。って分かるのは、外を知っている人なんですよ。

１ついい事例がありまして、昨年、日本銀行の集まりで、ＮＴＴのコールセンターを青森に設立された女性の方がいらっしゃいまして、その方が 200 名くらい、青森市内の方達を採用したそうなんですけれども、「あなたの給料を 1.5 倍にします」と、「リーダーになってください」というと、皆、断るんだそうです、青森の方。すごく優秀な方ばかりなんですけれども。その理由は何か。転勤をするのが嫌なんですよ。外に出たくないんです。ですからそういうのを断るんですよ。その方はすごく困っているとおっしゃいました。「こんなに優秀な方がいるのに」と、そういう部分があると思います。

あとグローバリゼーションのお話ですけれども、グローバリゼーションをするためには、やはりいろんな機会を、人から聞くだけではなくて行けるような体制づくりというのが一つ大切かなと思いますよね。誰かが行きたい時に行けるような体制をバックアップしてあげるようなことをできればいいなとは思います。以上です。

（知事）

なるほど。ありがとう。

どうぞ、小林さん。

（奥入瀬サミット実行委員会副会長　小林さん）

奥様、すごい美人で慣れちゃうというのはすごく分かります。本当に外に出て帰ってくると、素晴らしさがまた分かると思うのですが。

例えば、こういうものですね、紙のものがいっぱいあるんですけれども、グローバルの世界ですと、やっぱりｗｅｂだと思うんですね。ですから、例えばこういう人財が、青森人がこんなにいるというデータバンクを例えばｗｅｂ上にアップして。それには英語は必須ですよね。もしかしたら日本語と英語と中国・韓国という形の、例えばデータバンク、人財バンクがあれば、例えば青森に行きたい、下北に行ってみたいというと、ここに島さんがいるじゃないですか。島さんに電話をすれば、島さんにメールを１本すれば、島さんが全部アレンジをします。ブラジルから来た人なんか、もう島さん、張り切って何でもすると思うんですね。

そういう、世界の人に対応できるようなデータバンクのようなものを１つできるんじゃないかなと私はちょっと思いました。

あと、やはりｗｅｂ上、バーチャルではなくてリアルといいますか、県内の方が海外に行って研修とかをされることもそうですし、さっき言ったインバウンドで訪れてもらって、それを拡散してもらう。その地道な活動ももちろん大切なんじゃないかなと思いました。

（知事）

国内向けにはアップをしているんですけれども。英語対策とかは確かしてないよな。

次長、いかがですか。

ということで、今日のところは発展途上ということでとさせていただきます。

（ＮＰＯ法人ＡＣＴＹ理事長　町田さん）

ついでにと言えば何なんですけれども。発信力というところで私も思うところがございまして。

私は、よく青森県はＰＲが下手だとかよく言うんですけれども、本当にうまい人なんて、私はそんなにいないと思うんですね。いると、本当にその人に全部頼めば全部うまいこといくという話になるかと思うんです。

発信力というのは、イコール、やっぱりコンテンツだと思うんですね。コンテンツがものすご

く充実して、面白いものとか素晴らしい何かであれば、自然とそれは周りからどんどん広がっていくと思うんですね。

実際、今日、本当に取組をいろいろ聞いていて、私もすごいなって思いました。実際、「あっ知らなかった」というのがすごくたくさんあって、行政の皆さんが本当に今、新しいことばっかりで、というのでそういう取組をされていて、そこから生まれている事業というのはすごく成果があって素晴らしいと思うんですけれども、その部分というのは、別に県外にも世界にもそんなに発信しなくてもいい部分で、発信しないといけない部分というのは、そこで育った人達が何をしているかということが発信されていかないといけないと思うんですね。

そう考えた時に、やはり、行政がとか、行政がこの部分がなかなかというのはすごくあるんですけれども、私、行政の回し者ではないんですけれども、行政の方も逆に民間の方がここをやってくれないというのもやっぱりあるかと思うんですね。ここまでの戦略を立てて、人づくり戦略、ここまで人が育ちました、これだけ事業がありましたというのは行政の役割なんでしょうけれども、そこから育っていく人達が発信していくのはもう民間の役割だと思うんですね。そこの発信力が弱いと思うんです。

なぜかと言うと、そこまで育てたり、そういう人達が何かを始めたというところまではどうにか育てるんですけれど、そのコンテンツが本当に世界にアピールして発信していけるまでには、まだやっぱり成熟していないのではないかと。だから、そこに発信力が伴わないのではないかというふうにも感じるんですね。それが全てではないですけれども。その部分も併せて、今後そこを強化する動き。

例えば、じゃあそういうふうに育った人達がいろんなものを始めて、発信をする材料があるんですけれども、今度はそういった人達が皆集まって、皆でこれを発信する何かを考えようというので、そういう人達が皆、発信のための事業というのを１個作り上げると、そうしたらそれぞれ皆持っているものが合わせて青森の力として発信していけるのではないかというふうに感じます。その部分の何か生み出す一つ取組というのもあればいいのかなと思います。

（知事）

さっき若井君達が発表をしてくれたんですけれども、若手塾軍団がトップランナー等も含めていろいろとバーっと発信という仕組みをしているんですよ。

今、いただいたご意見というのは、行政として一定のところまでは段取りはできる。その後、非常に課題だと思っています。ただ、そういった私どものいろんな塾が連携して、今日トップランナーの真理子でもいれば面白かったけれどメンバーじゃないんだものな。連携をして動き出してきたというのは非常にまた一つの、「県は自らを助くものを助く」というのがこちらの強い方針ですから、自分達でやり出したということは非常に嬉しく思っています。

今後、そういった、今ご提言いただいたことは、我々としてどうしたら若井君達、それぞれの塾がやったような形のことをそれぞれの主体が連携して発信できるかということ、また少し考えたいと思っております。考えたいというか、どういうふうに具体にしていくかということを、また前例のないことが得意ですのでやらせていただきたいと思います。その他。大河原さん。今日は大学の立場で？

（弘前大学　大河原副学長）

お話を聞きまして、継続することが力だと、そういうことで、何年か経つうちに本当に力がついてきていると、そういうふうに感じました。

私、今、ボランティアセンターの方も担当しておりまして、2011 年 3 月の大震災以後、大学の

方でも学生がいろいろボランティア活動をしておりましたけれども、しだいに参加する学生の数が多くなっておりまして、去年の 10 月の時点で約 470 名ほどでした。これが今、1 月の末で、今度は除雪とかをやっておりますけれども、550 名ほどになっております。全学の学生が 7,000 名ほどですから、７～８％ぐらいになっております。この震災のボランティアから地域のいろいろなボランティアということになっていますし、これから来年に向けては過疎化の進んでいる集落の農業のお手伝いとか、社会体験というか社会参加のボランティアというものに成長してきているというか、そんなふうに数も増え、いろいろまた新しい分野に取り組んでいるという状況です。是非、皆さん方の活動といろんな形でまたつながっていければと思っております。

ボランティアセンターといっても、私は別に何もやっておりませんで、外から求めがあれば学生の事務局などが中心になりながらいろんな形で、どの程度の関わりをしていけばいいかということでやっておりますので、是非また皆さんの活動ともいろいろ協力、連携してやっていければと思っております。よろしくお願いします。

（知事）

ありがとうございます。大学生、本当に一昨年来から力をいただいていますけれども、それがまた震災のみならず地域活動にもなってきたということで、是非これからもうまくリードをしていただければと思います。ありがとうございます。

その他。若い世代、益川さん、そういう世代の人財育成について何かあれば。

（青森県ＰＴＡ連合会　益川会長）

ご指名、ありがとうございます。

青森県のＰＴＡの方は、小中学生という括りになりますので、若干今の皆様とは年代的に離れるかもしれませんけれども。

是非、先ほどもあったとおり、継続しての活動をこれからも続けて、先につなげていっていただければ、と思っております。

今、残念ながら小学生、中学生の中にも将来への夢が描けないという子どもさん方が結構いらっしゃいまして、また、新学習指導要領が完全実施ということで、カリキュラムが大変厳しくなるという状況もございます。

だから、何のためにそういった厳しい授業に取り組んでいくのかという部分や、こういった会に参加させていただいているということは、様々な活動や、こういった「ＹＥＬＬ」だとかいう部分を皆さんにもっともっと宣伝しなくてはいけないのかなと、自分としては感じております。

ただ、なかなか普段の会議だとか様々な場面でこういった資料をうまく説明するような手立てが無いのも事実でございますので、何かいいアイディアがあればまたお知らせいただければと思っております。

奥入瀬サミットは男性はダメだということですので残念なんですけれども、是非小林さんともまた相談をさせていただければなと思っております。以上です。

（知事）

今、小・中学校へのＰＲ、確かにそう言われてみると、ということなんだけれども。部長か石戸谷君の方で何かあれば。

（石戸谷チームリーダー）

ご意見いただきましてありがとうございます。

最近、キャリア教育の関係で小学生、中学生対象の私どもの行事というものは近年行っておらないんですけれども、次年度に向けて中学生を対象にした塾というのも企画しております。

その他、かつては「ユメココ・フェスタ」という形で、子どもさん達に集まっていただいて様々な職業体験、経験してもらったりとか、そういったものを紹介するような企画も行っていました。引き続き、そういった取組も含めて、私ども、検討をしていきたいと思っております。

（知事）

ありがとう。それでは、あと、どなたか。櫻庭さん。

（青森県商工会議所連合会　櫻庭常任幹事）

あまり経済界の方の話がないので。商工会議所でございます。

今、ちょうどフランスからスウェーデンの方に、県内の高校生が 10 人くらい行っておりまして、中間レポートですとか毎日ブログを使って報告をいただいています。あまりの緊張に、ちょっと体調を壊した方もいましたけれども、今はまた体調を戻して一緒にやっていると。その中で印象に残るのは、やはり同年代の外国人の生徒とディスカッションをして、やっぱり日本人は弱いと。自分達のアピールをかなり練習して行っているんですけれども、十分意思疎通ができていない。それから向こうの日本に対する感覚というのは、非常に子ども達は勉強をしていると。日本人は海外のことをよく知らないと。非常に反省をしたコメントも出ています。

そういう意味では、百聞は一見にしかずですけれど、１回体験すると、その子ども達はすごく成長してくるんだろうと思います。

10 年以上、10 名くらいずつ毎年ヨーロッパに行かせていただいているんですけれども、そういう意味で下勉強もしながらグループ討議をやるということは、子ども達が自分達の考えを発言できる、積極的に発言をするようになるということでは、これからもまた必要だと思っています。

それから、会議所も実は 120 周年を今年迎えると。２周り、還暦を２周りして、変わらないといけないということで、やはり、ちょっと気になるのは立志挑戦塾からビジネスにつながる取組、ボランティアではなくて、地域起こしという意味ではコミュニティビジネスでも構わないので、ボランティアという意味ではなくて商売として雇用するというところにつなげるような取組がやっぱり必要なのではないかと。自分達が果敢にチャレンジするというのは、そういう働く場所を創るという意味でも、あるいは賑わいを創るという意味でも必要かなと思っています。

今、会議所が考えているのは、各大学にもお願いをして、大学との連携、経済と大学とどう結びついたらいいか。中央学院の先生とお話をさせていただくと、いろんな留学生がいらっしゃるので、そういう彼らの目で見てお手伝いをできる部分はボランティアとして協力をするというお話もあります。英語はもちろんのこと、中国語や韓国語、そういう形で、ビジネスは相手がグローバルですから、自分のところのホームページぐらいは作れないと経済として回っていかない、取り残されるというところがあるので、そういう意識を植え付けるために、もう一度、改めて大学と商工会議所が連携をして、どういうきっかけになるのか、そこから新しいビジネスが生まれないかということで、新年度からそういう取組をさせていただこうかなと思ってございます。

それと、3,000 人くらい市内に学生がいるんだそうです。それがどうして新町を歩かないんだと。私は各大学に行っております。あまりにも山の中にあって隔離された生活をしていて、ほとんど街中で買い物すらもしない子ども達になってしまっているということで、街との関わりがほとんど希薄になっていると。それを街中キャンパスみたいな、大学が中心市街地でいろんな講座を、市民を対象にしたオープンキャンパスをやっていただけないかと。そんなことから街の中に大学生も含めて、歩くことによって活気をつけたいということで、そこからまた新たなビジネス

が生まれないかなということで、商店街にも動機付けしながらやっていきたいと。
　ビジネスはいつでも刺激を受けることによって新しい事業展開が必ず出てくるものだと思っていますし、皆さんのアイディア、あるいは意見は、ひょっとするといろんなビジネスにつながるチャンスがあると思っています。そこはいろんなビジネスのチャンスの芽があるということを自覚してもらうきっかけづくりになればいいなと。そういう意味では会議所はもうちょっといろんな取組を、人財育成はもちろん、インターンシップも含めてやらせていただいていますけれども、そこからもう一歩踏み込んだ形での取組をこれからさせていただきたいと思っておりました。

（知事）
　攻めの会議所と、画期的な話が出たので。まず公立大学の工藤さんと、それから立志、受けて立たなくてはならないだろう、何か。まず大学の方に。

（青森公立大学　工藤主事）
　青森公立大学で地域研究センターの主事をしています工藤と申します。
　今日は香取学長の代わりに、代理ということで来たんですけれども。このような会に参加させていただいて、まず圧倒されていまして、そしてすごく有意義だったなと思っております。
　今、街中から隔離されているんじゃないかという話もあったんですけれども、香取学長が就任されてから、大学の方ではＣＯＣ構想と言われています、大学は地域再生の核でなければいけないという構想を今年度から前面に打ち出しています。今年の４月頃からですけれども、着実に動いておりまして、今、県内の自治体ですと４町村、また今年度中にあと２つ、金融機関と自治体、青森市とも連携をする予定としております。
　その中で学長の方針としては、文科省が今さらＣＯＣ構想と出してきたけれども、青森公立大学は元々地域に根ざした大学であると。ですから、これから全面的に地域再生の核となる役割でやっていきたいということで、今年度からですけれども、もっとオープンにそういった活動をしていければなと思っております。
　立志挑戦塾の方も、地域研究センターの方とも一緒にやっておりますけれども、そういった活動が、まあ情報発信の不足ということもあると思いますけれども、皆様に広く周知できるような、そういう体制にしていきたいなと思っております。以上です。

（知事）
　大学生、街へ出ろと、予算を検討をしているので。また一緒に連携できればと思います。立志。

（あおもり立志挑戦の会　若井さん）
　先ほど櫻庭常任幹事様から叱咤激励をいただきましたので、お返しをしようと思います。
　まずビジネスという部分でしたけれども、私どもは、まず根底にあるのはプライオリティーが人財育成でございます。ですので、個々の、まずビジネスをしていて当然、個々のビジネスをまずやっていなければ、まず学ぶことはできないだろうという考え方がまず根底にございます。
　そして、私どもはその人財育成に向けた試みは皆でやるんですけれども、新しい事業を皆、個々で起こしております。
　商工会議所さんは 120 年、今まで、素晴らしい人達を輩出されていると思います。私ども、まだまだ５年でございますので、５年でこれだけであれば、私の中ではもう最高だと思っているんですけれど。ね、知事ね。ということでございますので。ビジネスの前に、まずは自分達の足元を固めて、それで同じような経験を後輩にさせてあげようという考え方でございます。よろしく

お願いいたします。

（知事）
マルシェとか、いろいろやり出したし、いろいろまた考えてくるんじゃないかと思っています。
かなり時間になってしまいましたが。どなたか。
なければ、最後に小原さん、せっかく来たから、これからどう生きていきたいと、失礼な言い方だな、これからどうしたいということを言ってまとめてちょうだい、今日の。俺がまとめるよりいいでしょう。

（県立青森西高等学校　小原さん）
今、いろいろ話を聞いていて、地域を元気づけるためには本当にいろいろ努力が必要なんだなと思いました。西高でも、実はおもてなしプロジェクトということをやっているのですが、それに私も参加していて、つい最近はストーブ列車に乗って五所川原の方に行っておもてなしをして、しとぎ餅を自分達で100個手作りで朝から作って、それを配るという活動もしました。
その時に、青森に着いてすごい興味を持ってくださっている全国の観光客の方々にたくさん質問をされて、私達なりに答えたつもりだったんですけれど、それをもっと知りたいとか、その由来は何だったのとすごい聞かれることがあって、それにドギマギしてしまった自分が、まだ本当に知らないことが多いんだなって思って、家に帰ってから、ねぶたってどういう由来だったっけとか思って、すごい自分で調べなきゃって思いました。
なので、今日、また話を聞いていて、改めて思ったので、今日、自分で気付いたことはメモしたので、それをしっかり学校に持ち帰って、皆で話し合って、生徒会の方とかでもいろいろ活動をしていきたいなと思います。いろいろ頑張ります。

（知事）
大変、小原さん、ありがとうございました。何かグッときちゃった。人財育成、やっぱりこれからも皆で、どの年代とかどうとかいわずに、生涯学習ですからね、皆で一緒にいろんなできることをそれぞれに進めていくということで、いい方向に行きたいと思います。小原さんに皆でもう一度拍手をいただいて終わりたいと思います。
ありがとうございました。

（司会：石戸谷チームリーダー）
皆さん、どうもありがとうございました。
それでは、知事の方から今、ご挨拶をいただきましたので、以上をもちまして第６回青森県人づくり戦略推進会議を終了させていただきます。
本日はどうもありがとうございました。

（知事）
ありがとうございました。また、よろしくお願いします。

以上